

## 千里の鳥・万博の鳥(第90回)「キビタキ」(2020年5月)

キビタキは体長13.5cmとスズメより小さな鳥で、雄は写真のように上面が黒色、眉と腰は黄色、兩覆羽に白斑、下面は黄色で喉のオレンジと配色も美しく、朗々たる歌声で人々を魅了する。春の渡りの季節には、ほぼ同じ所で観察できるオオルリとともに、声良し姿良しの鳥として、並び称されることが多い。この時オオルリは枯れ木のでっぺんや、谷筋に伸びた枝先において、口を大きくあけて大空に向けさえずるので見つけやすいが、キビタキは林の中でさえずっていて姿が見せないことが多い。

私(平)は鳥を見初めてすぐの40年前、枚岡公園探鳥会でキビタキ・オオルリを見て、新緑の落葉樹林でさえずる春の渡り鳥として強く印象づけられた。

その頃、キビタキ・オオルリは渡りの季節に大阪府内の平地～山地の樹林で観察されていたが、府内で繁殖が確認されていたのはオオルリのみであった。キビタキの繁殖が確認されたのは1998年、東大阪府民の森「なるかわ園地」(枚岡公園の高台)が初記録で、箕面・高槻など北摂山地や、金剛山・和泉葛城山などでの繁殖確認が続いた。その後キビタキの繁殖場所が広がるとともに、繁殖地の標高が低くなり、標高100～200mのくろんど・ほしだ園地、緑の文化園などでも確認され、さらに平野部の樹林でも繁殖するようになった。一方オオルリはこの40年間、繁殖地(の標高)に変化なく、しかも繁殖数が減っている傾向が見られる。

キビタキ繁殖の吹田市初記録は2005年6月、高野台・千里ニュータウン第4緑地(標高25m。私(平)の家から直線距離500m)で巣立ちビナを確認したが、最近では万博公園でも繁殖するようになっている。

吹田野鳥の会では18年前から万博公園を通過する春の渡り鳥を調査しているが、キビタキは落葉樹林に少なく、常緑樹林に多いこと、オオルリは落葉樹林でのみ観察できることを知った。しかも万博公園を通過するキビタキ個体数が年々増加しているのに対し、オオルリ個体数が減少傾向にあり、最近ではキビタキがオオルリの10倍ほどになっている。万博公園がキビタキの好む常緑樹林が中心で、オオルリの好む落葉樹林が少なくなっているためと思われる。

キビタキが増え、オオルリが減っている傾向は、万博公園など都市公園だけでなく、大阪府内の里地・里山の探鳥地でも同じ状況にある。それは、里地・里山として人々に利用されてきた集落周辺の落葉樹林が、ここ40～50年間利用されず放置されたことで常緑樹林化し、オオルリの繁殖適地がキビタキの繁殖適地に変化しているためと、勝手に推定している。

さて、写真のキビタキは渡りの途中に、万博公園の樹林で仮寝の宿をとり、林内で見つけた幼虫をついばんだところである。キビタキなどヒタキ類の採餌法では、フライキャッチ・ホバリングなどがよく知られているが、このキビタキは葉にいた幼虫を見つけ近づいて摘み取りしたと思われる。このキビタキが万博公園より北の繁殖地に向け渡りを続けたか、万博公園に残って繁殖したかどうかかわからないものの、生きていれば今年も万博公園で一晩、仮寝の宿をとったのでないかと思われ、いとおしく感ずる。



\*\*\*\* 写真 \*\*\*\*

種名:キビタキ

撮影日:2019年5月3日

場所:万博公園

撮影者:有賀憲介

\*\*\*\*\*

### 探鳥会中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症防止への対応のため、2020年5月探鳥会も中止いたします。今月は紙上バードウォッチングで、「キビタキを楽しんでくださるよう、お願いします。」

・吹田野鳥の会主催

甲子園浜探鳥会——5月7日(木)

・日本野鳥の会大阪支部主催

万博公園定例探鳥会——5月9日(土)